架け橋

JICA 海外協力隊　2021 年 1 次隊

ナミビア　小学校教育

ウサコス　エロンゴサ小学校

川畑　舞

第 3 「エロンゴサ小学校」号

1、EPS（エロンゴサ小学校）

今回は、エロンゴサ小学校と算数教育の実践についてお伝えします。

〈学校体制〉

ウサコスの人たちは皆、エロンゴサ小学校（Erongosig Primary School）のことを、頭文字を取って**EPS（イーピーエス）**と呼んでいます。EPS には、プレプライマリー（0 年生）から 7 年生（日本でいう中学校 1 年生）まであり、3 年生までは学級担任制、4 年生からは教科担任制となります。新年度は 1 月に始まり、12 月に終わります。学習言語は全学年が英語です。

〈学校規模〉

各学年は 1 クラスずつで、各クラスに約 50 名の児童が在籍しています。全校児童は約 360 名で、ナミビア国内の他の小学校（全校児童が約 1000 人を超えている学校が多い）と比べると小規模の学校と言えます。

職員は 16 名います。校長 1 名（男性）、教頭 1 名（女性）、教諭 10 名（女性 8 名、男性 2 名）、清掃員 2 名（女性 1 名、男性 1 名）、事務 2 名（女性）です。

〈学習教科〉

子供たちは、英語、アフリカーンス語、算数の必須教科（これらの教科で 1 つでも落第すると進級できない）に加えて、社会、ライフスキル（日本でいう生活や道徳）、家庭科（女子のみ）、農業（男子のみ）、情報、体育、図工、音楽を学習します。

〈その他〉

EPS には、日本が無償資金援助で建てた校舎（教室）があり、現在は 4 年生と 6 年生がその教室を使っています。校舎には日本の国旗と大きく平仮名で「ありがとう」という言葉が書かれています。私が赴任した頃、子供たちは日本が建てた校舎であることやその言葉の意味を知らなかったので、日本のことをもっと知ってもらいた

く、「こんにちは」「さようなら」「ありがとう」などの言葉を教えました。また、EPSは青系と黄色系の色で統一されていて、校舎の色は水色、スクールユニフォームは青色と黄色になります。

日本が建てた校舎	EPSの子供たち

2、私（ボランティア）の算数教育実践

私は4年生に算数、4年生から7年生に情報と体育を教えていますが、主な活動は算数における児童の学力向上及び指導者の指導力向上です。よって、算数の実践を詳しくお伝えします。

〈4年算数の学習内容〉

まず4年生の算数では、整数（千の位まで）、計算（3桁＋3桁までのたし算、3桁－3桁のひき算、3桁×1桁のかけ算、2桁÷1桁のわり算など）、分数（分数の概念）、お金（ナミビアドル）、測量（長さ・重さ・容積）、時間、形、立体などを学習します。日本の算数のように各学年の系統性がなく、4・5・6年生の内容では数字が大きくなるのみで、同じような内容をくり返し学習しています。

〈4年算数の児童の実態〉

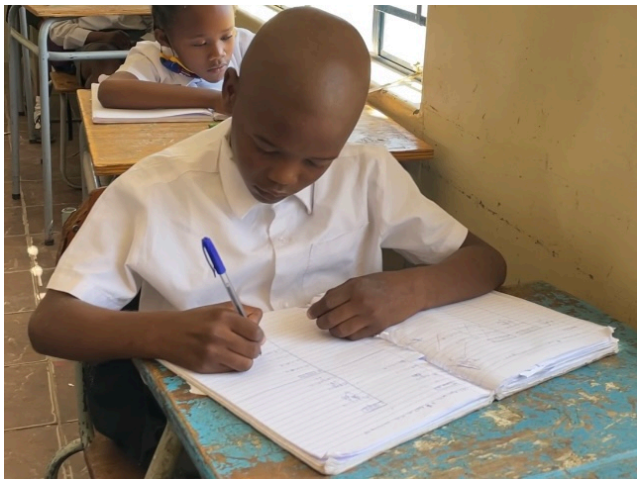
年度当初は、全員がくり上がりのあるたし算を計算する際に、指を使ったり、棒を描いて数を数えたりしていました。子供たちは、数を5や10のまとまりで捉えたり、数を分解（例:10は1と9）したりすることができない為、9＋5をする際は9から順番に5回数えて（10,11,12,13,14というように）答えを求めます。よって、数が大きくなると計算できなくなったり、かけ算（5×3＝5＋5＋5＝15）を理解していなかったり、わり算もかけ算の表を見ないと答えを求めることができなかったりします。

〈私（ボランティア）の実践〉

低学年の学習内容が定着していないという課題が見られたので、帯活動（授業の開始 5 分）で「**計算タイム**」の時間を設定しました。

計算タイムでは、初めに、数をまとまりで捉えたり、数を分解したりする活動を取り入れました。次に、くり上がりのあるたし算やひき算の計算方法を確認して、指や棒を使わずに計算する方法を学習しました。最後に、フラッシュカードでくり上がりのあるたし算やひき算の問題をたくさん解きました。

現在では、くり上がりのあるたし算やひき算において約 7 割の児童が暗算で（指や棒を使わずに）計算できるようになりました。2 学期以降、残りの 3 割の児童には個別に指導していきます。

また、東京都と EPS の子供たちでは、子供たちを取り巻く環境より児童の実態が全く異なるので、実際に授業を通して上手くいった実践を算数教員に伝え、指導方法を共有していこうと思います。

たし算の指導前	たし算の指導後